



# アプシステム株式会社

|     |   |
|-----|---|
| 所在地 | 〒754-0897 山口市嘉川1378-2<br>TEL: 083-976-4141                    |
| 代表  | 柴田 尊明   |
| H P | <a href="https://www.aps-sys.jp/">https://www.aps-sys.jp/</a> |

今月号では、アプシステム株式会社の柴田尊明代表取締役にお話を伺いました。



## ●会社沿革

- 平成 3年11月 創業
- 平成18年 9月 株式会社アプシステム設立
- 平成26年 5月 福岡営業所 開設
- 平成30年10月 東京事務所 開設
- 令和 4年 3月 中部営業所 開設
- 令和 5年12月 本社を山口市嘉川に移転



代表取締役社長の柴田尊明氏

## ●映像・音響設備のプロ、山口から全国に展開

アプシステムは映像・音響のプロフェッショナルとして、全国のお客様にサービス展開をしています。昨年12月に本社(山口営業所)を小郡から嘉川に移転しました。事業拡大や職場環境改善のため、また省エネ機器の導入や断熱材の性能向上でSDGsの取組にもなると考え、新社屋の設備投資を決意しました。また、個室の会議室や打合せ室を設け、倉庫も拡張したことでよりスムーズに業務が行えるようになりました。

弊社は県外でのシステム受注が多く、福岡・名古屋にも営業所を置いています。京都には製作品の発注管理などをする社内業務のサポートセンター、情報収集の拠点として東京にも事務所を構えています。

弊社の強みは得意とするIT技術を駆使して「提案・設計・開発・施行・保守」まで一貫して提供出来る事です。また、納入したシステムが確実に動くよう365日体制でサポートを行っており、全国のお客様からご好評を頂いています。

もともとは、個人事業主「UP's (アプス)」としてスタートしました。これは、向上心をイメージした屋号でした。おかげさまで仕事も順調に受注出来るようになり、さらなるステップアップを目指して平成18年に法人化しました。会社名はUP'sのイメージを残しつつ愛称を「アプス」とし社名を株式会社アプシステムとしました。「APS」(アドバンスト・プロフェッショナル・サウンドシステム)の愛称はお客様にも使っていただけるまでに浸透しました。また、マスコットキャラクターの「そんめい君」も社内外で好評を頂いています。



マスコットキャラクター「そんめい君」



移転した山口営業所の外観



移転に伴い拡張した倉庫

## ●映像・音響設備の設計からメンテナンスまで、一貫施工

これまで県内では、下関にある水族館「海響館」のインフォメーション装置や音響改修工事、山口宇部空港でセキュリティエリアへの侵入を防ぐ逆流監視システム工事、セントコア山口の宴会場「サファイア」の映像・音響設備の改修に携わらせていただきました。

県外では全国にあるポートルース関連施設の映像送出システムの設計や、場内の映像・音響設備の設置・保守・管理などを手掛けています。全国には100カ所以上のポートルース関連施設があり、多くの施設で実績があります。

最近では消防署に導入する映像システムの依頼をいただくことが増えています。指令センターに設置される大型の映像設備の設計からシステム開発・導入までを受け持っています。これは表示盤と呼ばれ、災害発生件数や管轄車両の活動状況、気象警報・注意報などの情報が表示され、災害発生時には進行中の事案情報が表示されるシステムです。



消防署に納入した表示盤システム



映像中継設備

また船舶に搭載する映像システムの開発も手掛けていて、例えば、巡視艇などにも採用していただいているもので、複数のレーダーなどの映像を1カ所に集めて、信号処理を行い最終的にディスプレイに表示させるものです。

高精細な会議室向けの大型LEDディスプレイも取り扱っています。Absen社の正規国内輸入代理店としてモニターの販売・設置だけでなく、技術サポートまで手掛けられるのが当社の強みの一つだと思います。

また、顔認証カメラを搭載したデジタルサイネージの開発や、施設全体に100台以上設置された監視カメラシステムのネットワーク設計や、複数のディスプレイを繋げて一画面に映し出したりする映像システム設計なども全国で多数実績があります。

このように、表示盤そのものの設置から、それぞれの情報を映し出すための映像システム設計、導入後の保守・管理まで一貫して引き受けています。また遠隔地にいらっしゃるお客様のシステムをサポートできるようリモート保守も実施しています。



110インチのLEDディスプレイ



AIクリスマスツリーも開発

## ●早くからデジタル化に着手、作業効率を高める

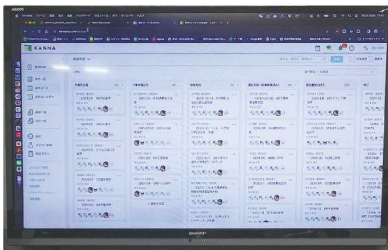
デジタル技術に強いこともあり、情報デジタルの導入やIT化に早くから取り組んでいたため、非接触やリモートワーク、ウェブ会議の導入が急速に進んだコロナ禍でもほとんど社内の体制が変わらずに済みました。これは県外での仕事が多いことで、円滑に仕事を進めるためのデジタル化を取り入れてきたおかげでした。

ペーパーレス化は早くから取り入れており、書類はPDF化して情報を共有でき、社内決裁もオンライン決済ができるシステムを導入しています。

また、社内での普段の連絡にはグループチャットアプリ「Slack（スラック）」を使っています。出出勤や仕事の進捗報告だけでなく、現場で困ったことがあれば、このアプリに書き込むことで誰かが解決策を提案してくれて、迅速に対応できるようになっています。

普段からデジタルツールを活用しながら仕事をしているので、急な用件でも日本中からアクセスができ社内にいるときと同じように対応出来ます。

デジタル化やIT化においては、ただ良いとされているツールに頼るのではなく、現状の紙やアナログで対応している部分を踏襲できるシステムや仕組みを考えることが大切なのではないかと思っています。



進捗管理等に現場向け施工管理アプリを活用

## ●職場環境改善で働きがいのある職場に

当社には20代の社員から超ベテラン社員まで在籍しています。

働きたいと思えるような職場環境作りに取り組んでおり、本社の移転や、完全週休二日制を導入しました。自由に飲むことができるコーヒーはこだわりのドリップマシンを使っていて社内でも好評です。

仕事はきついのは当たり前、ただし「楽しく仕事をする」ということを実践しています。いろいろなシステムに携われ、やりがいを感じることで楽しく仕事ができると思っています。弊社の仕事内容に興味を持ってくれる方が集まってくると、さらに活力が生まれお互いが育つきっかけになると考えます。

## ●移転先で社食カフェ食堂の構想も。さらなる事業拡大へ

先に本社屋を完成させましたが、移転先の土地にはまだ余裕があるので、隣に社員が使えるようにいずれはカフェを開きたいと思っています。周辺には食事をできる場所が少ないため、毎日食べたいと思えて、栄養も考えられたメニューを提供できる場所にしたいですね。

これからも「仕事は楽しく」を念頭に、事業拡大や若手採用に取り組んでいきたいと思っています。